

愛知県西尾市、議場放送システムの導入・活用状況について

- 1.議長・局長席に設定された小型モニターの操作性や活用状況については、議長席・局長席のモニターは、基本的には操作していないが、事務局席にも同様のモニターを設置しておりそこで、マイク及びカメラの操作を行っている。事前設定により、モニター画面のタッチ操作のみで、マイクやカメラを切り替えられ、利便性は高い。
- 2.音声文字化システム導入については、語字は見られるが、理解できないほどのものではない人名・地名等はあらかじめ辞書登録で表示可能。発言等が瞬時に議場モニターに表示される。実際操作してみると私の場合は滑舌が悪く複数箇所の誤りが見られた。
- 3.旧システムは平成20年から使用、10年あまり使用してきたため、機器更改の必要性があり、改修となった。箕輪町でもそういった面から見ても改修の必要性はある。
- 4.ペーパーレス会議システムの導入により、本会議の資料を全議員が所持するタブレットに格納することで、紙資料の配布を減らし、事務局職員の業務の削減はできたが、操作方法がわからない議員・職員への対応に時間がかかること、費用が高額であることはデメリットである。

所感としては、人口17万あまり、議員定数が30名という西尾市と比べ、箕輪町では、利便性等を考慮しても、同様の改修は費用面からみてもできない。

愛知県安城市、システム導入について

- 1.議場でのシステム、タブレット等の導入は、行政側がすでに導入済であったため、議会主導であった為、議会主導で行われた。行政側との共有はできない。事務局を通じてのやり取りとなる。タブレットの使用料は議員の政務活動費の中から徴収する。
- 2.完全ペーパーレスではない。
- 3.電子採決を行っている。誤り等不便な点はないか質問をしたところ、時間的にも余裕を持って行っている為、問題等はなかった。新人議員は電子採決が当たり前で、起立等の採決に違和感を感じるようだ。
- 4.傍聴者への資料配布については、基本的には行っていない。議場モニターに写し出し、利用していただく。

所感としては、システム導入にあたり、全議員が同様に操作ができるように、3ヶ月で30回あまりの研修会を行ったようで、箕輪町でももっと研修を行い、すべての議員がスムーズに利用できるようにすべきと感じた。